



兵庫銀行，みどり銀行の破綻とみなと銀行の誕生（第391回例会，経済学研究会報告要旨）

滝川，好夫

(Citation)

神戸大学経済学研究年報, 47:145-145

(Issue Date)

2001-03-05

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/89000061>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/89000061>



第391回例会

—平成11年7月14日—

兵庫銀行、みどり銀行の破綻とみなと銀行の誕生

滝川 好夫

はじめに

三木無尽の経営破綻

兵庫銀行の経営破綻

みどり銀行の経営破綻

みなと銀行の誕生

おわりに：地域金融機関とコミュニティ精神

報告は、「兵庫銀行、みどり銀行の経営破綻とみなと銀行の誕生」というテーマでこれから研究を行っていくとする際の開題にあたる部分であり、まず何故このような問題に取り組もうとしているのかを述べた。

日本経済の構造変化に対しては、旧来の日本型（組織）でもなく、アングロ・サクソン型（市場）でもない、「コミュニティ（連帯）」中心の、第三の資本主義ヴィジョンを模索すべきであると思う。「コミュニティのつなぎ手」としては、地域金融機関と郵便局が相応しいと考えている。兵庫銀行、みどり銀行はコミュニティのつなぎ手として失敗したから経営破綻したということを、これからの研究の中で明らかにしたいと考えている。そして、地域金融機関（県民銀行）とは何か、どうあるべきかを検討したいと考えている。

民・官の金融システム大改革（日本版金融ビッグバン）は理念なく進行しているように思える。官の金融ビッグバン（財政投融资制度改革）においては、何がユニバーサル・サービスであるかの議論はなく、民の金融ビッグバンにおいては、アングロ・サクソン型市場原理である「フリー、フェア、グローバル」が只只お題目となっている。これからの研究の中では、フリー、フェア、グローバルは大手金融機関の金融ビッグバンの原理であり、地域金融機関の経営原理は「組織」でもなく、「市場」でもなく、「コミュニティ（地域との共存・共栄・共生）」であるべきことを主張したいと思っている。

いくつかの地域金融機関は、兵庫銀行と同様に、コミュニティ（地域との共存・共栄・共生）の精神が欠落していたからこそ経営破綻したと考えられる。兵庫銀行の経営悪化は「住専（住宅金融専門会社）問題」と並んで、わが国の金融システムを動揺させたものであったが、住専はノンバンク、兵庫銀行はバンクであり、兵庫銀行の問題は最重要問題であるべきであった。しかし、住専問題の余波を受けて、「組織」によって打ち出される対策がすべて中途半端なものとなり、ついには「組織」は「市場」に完敗し、兵庫銀行・みどり銀行は破綻したのであった。兵庫銀行・みどり銀行の経営危機には「組織」によってさまざまな対策が打たれ、それらの対策の大半ははじめてのものばかりであった。回顧すれば、兵庫銀行・みどり銀行は、わが国の金融システム安定化策が作成される中での、実験台になったと言えるかも知れない。したがって、兵庫銀行・みどり銀行の経営破綻は、組織が市場に完敗した過程であり、それらの過程を実証することは、「組織（金融当局）」および「市場」の問題点を明らかにすることになり、「コミュニティ」のつなぎ手としての役割を期待される地域金融機関への展望を開くものとなるであろう。